とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1部70円1カ月200円　1カ年前納2,000円

学園都市はどうなる

田中首相の判断に

色めきたった田中首相の日本列島改造論のなかでどうにか命脈を保っている形の研究学園都市建設の第一号を北海道にと一道総合開発委員会（委員長・升田貴知破北大学長）では十六日に総会をひらいて、基本構想をまとめて宮原内知事に答申して一応の区切りをつけましたが、内容は昨年八月の中間報告とほぼ同じで今回もまた建設候補地を発表しなかったのは、まだ国の調査方針がハッキリしていないためとしています。

しかし道側としてはこれがかりで道内各地を現地調査していくつかの候補地を選定してあるものの発表をさし控えているのは

一、候補地周辺の地価がめがることをおそれたい

二、明春の道知事選挙絡みとして不利な状況をつくりたくない

三、いくら道が選定しても田中首相の鶴の一声に左右されるなどの背景によるもので、ここ当分は誘致各市村をさらにヤキモキさせることになりそうです。

このたびの答申による候補地選定の条件としての①自然環境に恵まれたところ②国有地もしくは公有地で二千㌶以上③国立公園、国定公園、道立公園などはさける、という点では足寄は有利な立地にあるものの

④交通体系との関連⑤既存都市機能の活用、という点では不利な地帯にあるとみられています。

道側が選定した候補地は八カ所とも四ヵ所ともいわれ、いずれも極秘にされていますが、このなかに足寄がふくまれているとする根拠は

一、阿寒地帯に学園都市をは田中首相が言い出したばかりであり入れないわけにはいかない

二、当初は阿寒、津別の両町をふくめた三町の期成会であったために国立公園地域もふくまれていたが、道側の意見もあって国立公園地域を除いた

三、阿寒は道東の二市、十六カ町村が一致して誘致運動にあたっており、本名、中川、安田の三代議士が支持していることで、どの候補地についても一長一短があるので、道としては一カ所にしぼりきれず、結局は田中首相の政治的な判断ということになりそうで、そうなれば阿寒が浮かびあがることはあり得るものとみられています。

小坂山 工事おくれる

野上電鉄不動産によるアシロ・ハイランドの建設工事などを日本道路KKに発注したものの、度重なる地域に指定されていたため道路をつくるための町有地二㌶がこれまた農業地域となって十勝支庁では「これ以上の除外はまかりならん」として応じないために、現地へ資材運搬もできない状態で、一難去ってまた一難の〝お役所仕事〟の障害に悩まされ、町民期待の観光開発も計画どおりにすすまず、またしても二カ月の工事ストップとなっています。

横田氏が消防庁長官表彰

足寄町消防団（久保与一郎団長）と足寄消防署（川畑正義署長）の春季連合訓練は十一日午前八時から西小学校グラウンドに隊列を行進のあと、消防ポンプ操作で中央区、東区での模擬火災、駆逐りでの一斉放水、分列行進のあと、消防ポンプ操作で中央区、東区での模擬火災、駆逐りでの一斉放水、分列行進のあと、消防ポンプ操作で中央区、東区での模擬火災、駆逐りでの一斉放水、分列

庭師免許第一号に　所啓一さん

北三町ではじめて知事免許の庭師が出現しました。この人は足寄町足寄太の所啓一さんで、正確には造園業のなかの造園一種としてこのほど道知事の許可を得たもので、庭園ブームで庭木や庭石の販売業者はふえているものの、かんじんの庭園づくりの専門業者がいないところから、この地帯での庭師第一号となったものです。

所さんはもともと松ぐろ造園の常務、農業会の青年部や町議として活躍のさい各地の庭園をらてまわって興味を覚えて、日光流、桃山流、大磯流などの技術を御覧になって研鑽、操業につづいて中央区、東区での模擬火災、駆逐りでの一斉放水、分列行進のあと、消防ポンプ操作で